

2008-4

学 会 通 信

平成 20 年 4 月 1 日

工業経営研究学会

NO.62

Association for the Study of
Industrial Management (Japan)

工業経営研究学会第 23 回全国大会について

1. 第 23 回全国大会は、工業経営研究学会主催・明治大学経営品質科学研究所協賛という形で運営し、明治大学駿河台リパティタワー内の教室を使用します。
2. 第 23 回全国大会運営のために、すでに学内に工業経営研究学会第 23 回全国大会準備事務局（金子・山下・富野・鄭・西・清水・風間）を設置するとともに、工業経営研究学会東日本部会会員を含む第 23 回全国大会実行委員会を設置しました。大会実行委員会メンバーは以下の通りです。

委員長 金子逸郎, 委員 野村重信・鈴木幸毅・貫隆夫・平松茂実・山口善昭・関根雅則・山下洋史・風間信隆（敬称略）、以上です。

3. 大会日程

2008 年

10 月 3 日（金）：工場見学（JFE スチール・東日本製鉄所を予定）、理事会

10 月 4 日（土）：自由論題，特別記念講演，理事会，分科会，院生セッション・
経営品質科学シンポジウム，会員総会（理事選挙），懇親会

10 月 5 日（日）：統一論題，自由論題，シンポジウム

4. 統一論題テーマ：

グローバル化における工業経営研究のフロンティア

ーモノづくりの質的高度化を目指してー

統一論題趣旨

1990 年代以降、IT 革命の進展、旧社会主義諸国の市場経済化等を背景として、経済活動の地球規模での一体化、グローバル化が進展している。こうした経済のグローバル化は、「大競争（メガ・コンペティション）」とも呼ばれる、激しい企業間競争を生み出している。こうしたグローバル化の進展は、BRICs 諸国を中心に移行経済諸国における急速な経済発展をもたらす一方、そのグローバル化に伴う負の側面、世界的規模での環境破壊、大量失業の脅威や社会的不平等の拡大も克服されなければならない喫緊の課題と認識されるようになってきている。

一方で、我が国経済は、1990 年代の「失われた 10 年」・「失意の 10 年」とも呼ばれるような、長期の深刻なデフレ経済に喘いできた。確かに 2002 年以降我が国経済が緩やかな景気回復過程にあると言われているものの、依然として多くの克服すべき課題が残されている。とくにパート・派遣社員等の不安定就業層の拡大や、東京一極集中に伴う地方との格差等の「格差問題」の克服、「少子化・高齢化社会」の到来は大きな課題として認識されている。

我が国経済のサービス化はますます進展しているものの、資源の乏しい我が国の特殊な状況からすれば、モノづくりの一層の高度化こそが必要不可欠であり、その点で工業経営研究の社会的意義はますます大きくなっている。

1990年代以降、グローバル化に伴う激しい価格競争・コスト削減競争に巻き込まれる一方、食肉偽装事件をはじめとする企業不祥事が相次いで明らかにされ、またリチウム電池の発火等の製品欠陥事故も相次いでおり、我が国製造業のモノづくりの高度化ないし質的強化の必要性は大きな課題となっている。21世紀のモノづくりの進路は経営の「量的拡大」から「質的強化」にあるものと考えられる。こうした質的強化のために、研究開発やイノベーションの創出、ブランド・パワーの一層の高度化だけではなく、モノづくりの倫理ないし社会的責任の確立、人的資源の活性化、環境経営の推進、クラスター形成等、工業経営研究のフロンティアが広がっているようにも思われる。

そこで第23回全国大会では、グローバル化の進展の下で我が国におけるモノづくりの質的強化を目指す諸課題と解決の手掛かりを論じることを統一論題のテーマとしたい。

5. 自由論題報告者・院生セッション報告者を下記の要領にて募集いたします。

- (1) ご報告を希望される会員は**5月30日(金)**までに、氏名、所属、住所・電話番号、連絡先(E-Mailアドレス)、報告テーマ、400字以内の報告要旨を添えて、下記のメール・アドレスにてお送りください。
- (2) 報告者の決定は6月中旬までに大会実行委員会が行い、各報告者に報告可否をメールにてご通知致します。

大会に関する問い合わせ先：

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学駿河台研究棟 839号室

〒183-0004 東京都府中市紅葉丘3-17-36 (03-306-5136)

E-Mail nobutaka@kisc.meiji.ac.jp

「学会賞・研究奨励賞」候補推薦についてのお願い

学会賞・研究奨励賞選考委員会
委員長 風間 信隆

2008年度の学会賞・研究奨励賞について、**2008年6月20日(金)**までに学会賞・研究奨励賞候補作品の募集を行い、その後、対象作品について選考委員会で選考を行いたいと考えております。つきましては、学会賞・研究奨励賞候補作品を会員の皆様にご推薦(自薦を含む)頂きますようお願い申し上げます。

なお、学会賞及び研究奨励賞について、工業経営研究学会内規は以下のように定めています。

1) 学会賞

対象者： 全会員

候補作品：① 本会学会誌及び他誌掲載の会員単独又は会員共同論文、会員単著、及び会員編著(但し、執筆者の過半数が会員であること)

② 候補作品の発表時期の期限は受賞年から数えて過去4年以内とする。

受賞者数： 2名以内

受賞制限： 受賞者は4年を越えなければ再受賞できない。

2) 研究奨励賞

対象者： 10月1日現在、満39歳までの会員

候補作品： 特定した課題について過去の一連の業績とし、かつその中に本学会発表論文を含むもの。

受賞者数： 2名以内

受賞制限： 受賞者は3年を越えなければ再受賞できない。

学会賞及び研究奨励賞のご推薦・ご応募は、選考委員会委員長 風間信隆宛に対象作品を添えてお送り下さいますようお願い申し上げます。会員の皆様のご協力・ご支援を心からお願い申し上げます。

問い合わせ先：

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学駿河台研究棟 839号室

〒183-0004 東京都府中市紅葉丘3-17-36 (042-306-5136)

E-Mail nobutaka@kisc.meiji.ac.jp

新入会員・退会会員について

2008年度第1回理事会において、以下の会員の入会および退会が承認されましたのでお知らせいたします。

◆新入会員

氏名	区分	所属	氏名	区分	所属
濱野 隆	正会員	作新学院大学大学院	石坂 誠一	正会員	ナレッジ・ファーム
長澤 忠彦	正会員	京都学園大学	折原 浩	正会員	(株) ディセンター
井上 雅由	正会員	特定非営利活動法人 奈良ストップ温暖化 の会			

◆退会会員

氏名	所属	氏名	所属
福田 康明	名城大学	有村 信一郎	中京学院大学
清水 理七	清水研究所	杉本 正広	杉本商事株式会社
安藤 淳司	名古屋学院大学	細川 修一	関西大学大学院
藤井 良昭	小松ライム製作所	大江 正行	大江経営管理事務所
鹿 蓉	追手門学院大学経済学研究科		

北海道部会活動報告

1. 工場見学

(平成19年度)工場見学会(苫小牧市)2007年12月3日(月)

近年苫小牧市は、北海道における自動車産業の集積地として中核企業の進出が加速されております。中核企業のもと、ユニットを中心とする技術集約的な広域圏型集積の動きが注目されます。平成17年度の見学会でお世話になったトヨタ自動車北海道株式会社に引き続き、今回は最初に進出されたいすゞエンジン製造北海道株式会社、4月に操業が開始されたアイシン北海道株式会社に大変お世話になりました。

記して御礼申し上げます。

- 1) アイシン北海道株式会社 10:30~12:00
- 2) いすゞエンジン製造北海道株式会社 13:00~14:30
(見学順)

環境研究分科会・循環型社会研究分科会

合同研究会活動報告

環境研究分科会と循環型社会研究分科会の共催による合同研究会を平成19年12月9日に開催しました。

1. 日時:平成19年12月9日(日) 午後1時30分から午後5時まで
2. 場所:宝塚造形芸術大学 大阪梅田キャンパス 502教室
〒530-0012 大阪市北区芝田1丁目13番16号
3. 報告内容と報告者:
「ビニロンのメタモルフォーゼ:学生服からアスベスト代替品へ」
関西学院大学・関西大学兼任講師 博士(学術) 井上 尚之 様
「持続可能な社会、その条件は? ナチュラル・ステップから学ぶ」
特定非営利活動法人 奈良ストップ温暖化の会 理事 井上 雅由 様
4. その他:
報告終了後、参加者全員による議論を行いました。
さらに「工業経営研究学会20周年記念出版」の執筆希望者を募りました。
次回の研究会は平成20年7月13日を予定しています。

グローバルゼーション研究分科会

活動報告及び活動予定

1. 西日本部会・グローバルゼーション研究分科会共催 工場見学・インド研修発表会
3月28日(金)10時30分より、(株)オイダ製作所(大垣)において、下記の通り工場見

学と研究発表を行いました。

(1)工場見学

- 10:30～12:00 オイダ製作所工場見学
改善活動の説明（30分）、工場見学（50分）、質疑応答(10分)
12:00～12:40 昼食

(2)インド研修発表会

12:40～17:00

- ① 「インド経済の発展と製造業の本格的離陸」 作新学院大学 那須野公人 氏
- ② 「グローバルなアウトソーシングにおけるインドと台湾の比較－TCS
とホンハイの事例研究」 台湾・東海大学 劉 仁傑 氏
- ③ 「グローバリゼーション下における中小企業の形態変化－インド中小
企業とその他の国－」 愛知工業大学 野村重信 氏
- ④ 「地域企業の挑戦－日精 ASB の国際展開とインド・ムンバイ工場－」
長野大学 表 秀孝 氏
- ⑤ 「インドと日本の ICT サービス産業」 関西大学 野口 宏 氏
- ⑥ 「自動車産業が牽引するインド製造大国」 浅野研究所 浅野宗克 氏
- ⑦ 「インド旅行記－工業経営研究学会の調査旅行に同行して」
ジャパンプラザ 安岡 襄 氏
- ⑧ 「ジャイプル ジェンタル・マンタル天文台を訪ねて」
加藤特許事務所 加藤英一 氏
- ⑨ 「インド研修旅行に参加して」 オイダ製作所 種田文彦 氏

2. 今年度の海外企業視察について

今年度の海外企業視察が、次のように決定しました。皆様奮ってご参加下さい。

(1)訪問先：シンガポール、バタム島（インドネシア領）

(2)日 程：8月23日（土）～8月29日（金）

工業経営研究学会

学会通信 62号（08-4） 2008. 4. 1

発行人 野村 重信

編集担当 関根雅則 那須野公人

学会事務局 高崎経済大学 経済学部 関根雅則

〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町 1300

TEL：027-343-5417（代表）

E-mail：noddie@os.rim.or.jp（自宅） sekine@tcue.ac.jp（大学）

ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/asimj/index.html>